

女子部 習字

「2014年度の習字」

渡辺 陽子

2014年度は36回の習字提出、7年ぶりに「天」があり、ほかに4枚の「地」があった。判を押したものは「天」「地」「人」合わせて1564枚であった。書初めには4枚の「地」があった。今年、習字を担当したのは加地・竹上・二宮・渡辺・小谷野（高等科3年添削）である。クラスごとに一年間で判を押した枚数を表に表してみた。大体クラスの半数以上が判を押されている。高等科1年は一生懸命取り組んだが、判を押された人数としては少ない結果となった。

2014年度に判を押した枚数

	在籍人数3月末	判を押した年間のべ枚数	判を押された人数
中等科1年	33人	200枚	22人
中等科2年	35	211	23
中等科3年	31	226	25
高等科1年	52	274	23
高等科2年	46	317	23
高等科3年	40	336〔天1・地4を含む〕	24
全体	237	1564〔書初めは除く〕	140

中等科は年に二度、書道の基本を学ぶ授業を受けるが、そのほかには毎週板壁に張り出される「人」のお習字をじっくり見てそこから学んだり、書道の教科書などを参考に週末の習字の取り組みに時間をかけて筆遣いや字配りなどを自分で学ぶ努力をする生徒もいる。また、長期休みにも週一度の習字を続ける人や、志を立てて毎日取り組む生徒が今年も数人いた。

一週間の生活、友達とのかかわりで感じたこと、様々な行事の準備や責任を通しての思い、自然の中で感じることなど、半紙一枚の中に思いを表すことはなかなか大変であるが、毎週集められた習字には、生徒の思いがそこによく表れ、日々の生活を思い返し内省の時間を持つことが生徒たちの心を育てることにつながっている。とくに高等科3年生は、女子部の自治の責任を負い、様々な場面で苦心したり喜びを感じる機会が増え、書きたい思いが勢いある字になったり、祈る気持ちや下級生を見守る穏やかさを表している。良い字を書けるようになりたいとの気持ちがクラスのお互いを刺激し、一年間の進歩が大きかった。それは上の表の数字にも表れている。じっくり取り組んで毎週のように「人」が押された人も数人おり、皆が感心することが多かった。女子部卒業前の最後のお習字は見る人の心を打つほどの立派なものが出て「天」の判を押し、皆で喜び合った。

集まった習字のなかから、筆遣い、表現、字配りなどを見て、(時には「言葉」で選ぶこともあるが、)みなさんの参考になるもの、学びの材料になるものを選んで「人」の印を押し、食堂に貼る。

次頁以降には、集中して力を出した行事・生活の中での印象や感想、季節の言葉、友だちや自分の心と向き合う思いなどをカテゴリーに分けた。「天」「地」の習字・書初めと共に、皆の「言葉」を記録する。

一年間の「人」の習字の中から、行事や様々な生活の場面での印象に残る言葉のいくつかを集めてみた

新学期 新入生を迎える

臨機
応変

迎える
嬉しさ

姉妹と
歩む

新たな
一歩

相助け
相親しむ

友を
迎える

憧れの
存在

支える
立場に

上級生の思い

団体の
温かさ

頼れる
友と

希望
に生く

大志を
抱け

笑顔が
力に

背中を
見守る

眩しい
姉妹

優しく
包む

遠足

山を
感じて

登山を
楽しむ

頂上の
景色

山へ
感謝

遠足で
の学び

はじめ
の一步

学びと
成長

団結の
難しさ

山頂の
輝き

頑丈な
土台を

成長し
た実感

本当の
頂上へ

野の花祭

先頭の
責任

自然の
恵み

溢れる
笑顔

楽しい
日々

野の花祭

努力の花
咲く

野の花
の姿で

野の花
咲かす

体操会

皆で
一つに

伸びと
伸び

指先を
見る

跳んで
笑って

大芝生
を翔る

虹色に
編もう

花咲く
笑顔

鼓動を
連ねる

飾らぬ
輝き

音楽会

響きを
楽しむ

歌に
乗せて

共に
奏でる

心が
歌う夜

音楽会

優しい
余韻

幸せを
奏でる

豊かな自然・季節を感じる

金木犀
の香り

梅雨
の空

富士
初冠雪

霜の花
咲く

早朝の
輝き

朝靄と
白い息

日々の生活 友との交わり 折り

全力
疾走

思い
やりい

最高の
友と

成長を
実感

友の
勇気の

確実に
前へ

鯛飯

花を
愛する

大切な
想ひ

与える
人に

変化を
恐れず

七人の
黒子

頭を
つかう

今日を
丁寧に

歩みを
寄せて

穏やかな
日常

良心に
従う

主に
頼りて

慈しみ
深く

祈り
つづける

垂穂の
輝き

天に富
を積む

静かな
祈り

謙虚に
生きる

今年度の「天」と「地」



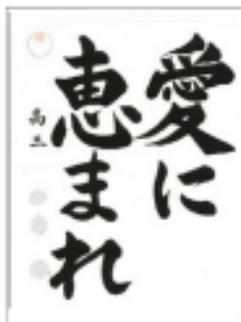
「天」 3月14日



「地」 5月22日



「地」 11月21日



「地」 3月7日



「地」 3月14日



2014年度の書初め

「地」を押したもの